



# 森のなかま

2021年 5月号

NO. 155 (継続300号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 令和2年度成長の森 植樹会活動報告

日時： 2021年3月14日

場所： 県立21世紀の森

神奈川県 水源環境保全課水源の森林推進グループ 技師 石井様 主事 末広様

かながわトラストみどり財団 豊丸課長 大木様 内田様 古館様 藤本様 山口様

インストラクター 総括リーダー 上田 啓二⑩ 柏倉 紘④ 相馬 夏男⑤ 森本 正信⑤

滝澤 洋子⑤ 村井 正孝⑨ 湯浅 鉄男⑪ 竹内 明彦⑮ 大友 博道⑯ 堀口 俊司⑰

(記 写真 上田 啓二⑩)

令和2年度成長の森植樹会は3月13日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の緊急事態措置期間が延長されたため、中止となりました。成長の森参加者が寄付した無花粉杉の苗木は県担当者、トラストみどり森林課担当者そして担当インストラクターで、整備された令和2年度成長の森エリアに植栽することになりました。3月13日は春雷を伴う低気圧の影響で作業は14日に実施することになりました。

14日朝は晴天に恵まれ、21世紀の森の取り付け道路には桜（桜の種類はわかりません）と菜の花が満開でした。10時に全員集合し苗木と植栽道具を軽トラックに載せて山の上にある杉種採取園隣の成長の森に移動しました。コンテナ苗の植栽方法を石井技師から指導を受け植栽位置を示す竹杭に沿って実施することになり各列に分かれて植樹が始まりました。

コンテナ苗はディプル(または唐くわ)で穴をあけその穴に苗を入れ、根鉢上面と地表面が一致する深さで、深植えを避けること

が重要で、根鉢をつぶさないように適度に踏みしめて、根鉢上面に覆土をし、地被物で苗木の根本付近を被覆して、竹杭に識別テープを結び1工程が終了します。



植栽場所はなだらかなところで作業は思いのほか順調に進み昼前には予定された植樹は完了しました。

昼食をはさみ午後から平成元年度の植樹エリアの枯損苗の補植を行いました。100本余りの苗は1時間足らずで補植されました。

令和2年度の成長の森エリアは眼前には相模湾が広がり、右手には富士山が手に取るような近さで見られる場所です。植樹した杉が順調に育ち、杉苗を寄付した子供たちがこの場所を訪れてくれることを願っています。

## 《安全管理委員会主催》 安全管理講習会

日時： 2021年4月4日（日）14時00分～16時30分  
場所： ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2  
講師： （公財）かながわトラストみどり財団みどり森林課シニアコーディネーター 大木 伸一様  
安全管理委員長 宮下 修一<sup>⑩</sup>  
森林部会長 岩田 典義<sup>⑭</sup>  
司会： （安全管理委員会）湯浅 鉄男<sup>⑪</sup>  
参加者： 会員 36名

（記 写真 宮下 修一<sup>⑩</sup> 写真 黒川 敏史<sup>⑭</sup>）

### 1. 「県民参加の森林づくりをととした安全管理～現場の事例から考える～」（大木）

県民参加の森林づくりの目的は、県民の森林や林業に関する理解と保全意識の向上を図るための森林・林業に関する学習や体験活動を実践することである。活動は安全・無事故が第一で、楽しい活動でなければならない。イベント中の安全確保には、看護師による救護と判断、森林インストラクターによる救護、必要により救急車の要請と病院への搬送がある。

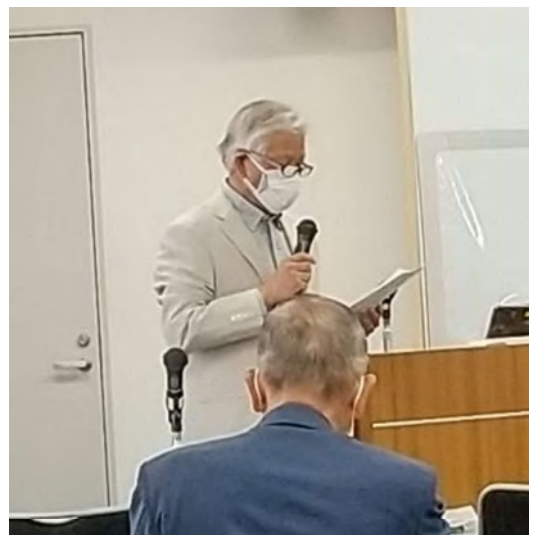
自然の中で活動する人はいつ危険な事態に遭遇するかわからない。適切な対応を知ることは、自然の中での様々な活動を楽しむための基礎知識。可能な限り危険を回避する、どのような危険があるのか「実例」、「予防」、「症状」、「応急処置」を常日頃から学び続けることが大切であると結ばれた。



### 2. 「会の活動における安全管理への取り組み～危険予知活動の実践とヒヤリハットの事例を見る～」（宮下）

会の活動方針の1つに、「すべての活動において安全意識の向上を図る」とあり、また、インストラクターの役割は、安全への配慮、一般県民が求める達成感を満たす手助け、知識・情報の提供がある。

安全管理への取り組みの1つとして、2016年度より県民参加の森林づくりで安全パトロールを実施している。安全パトロールの結果、今後も継続的に進めていくことは、安全目標を明確にして全員でKYK（危険予知活動）を行う、作業に適さない服装や不安全道具を事前に確認する、道具の使い方の指導、近接作業や上下作業など不安全行動への注意、不安全状態や危険行為への気づき、技術や指導能力の一層の向上などが挙げられた。



ヒヤリハットは間伐作業で比較的多く見られた。その事例として、掛かり木処理中ロープを掛け直し引こうとしたとき自然に落ちた、間伐作業中伐倒木が作業していた人の近くに落ちた、上部より落石があり作業を指導していた人の近くに転げ落ちてきた、掛かり木を地上にずらして倒すため根元にロープを掛けて引いた時、先端部の掛かり木がはずれ地面に落ち反動で根元が上がり足元に落ちた、などがあつた。

重要なことは、危険予知を実践し、ヒューマンエラーを防ぐ具体的な安全管理を行う。安全管理としては、①作業の技能教育・訓練、②安全衛生に関する教育・訓練、③ヒヤリハットの蓄積・共有、④KY活動（危険予知活動）、⑤パトロール、⑥危険作業は一人でやらずペア・コンビで行う、⑦現場での声のかけあい（危険を指摘しあう）、⑧職長や安全衛生責任者などの教育・訓練、⑨明確な安全指示（誰れが何をするのか）などがある。また、考えられる危険なことに気づき、安全目標や危険を回避する安全な作業を参加者に伝え実践する。防げた事故や災害をおこさないためにもヒヤリハットを伝え、対策を講じることである。

### 3. 「森林インストラクター活動時における事故事例から学ぶ」（宮下）

間伐、竹林整備、下刈りでの事故が半数以上を占め、創傷（切傷）や擦過傷が目立つ。間伐で見られた事故は、伐倒した木の枝落とし中に誤って鋸で手を創傷したケースが多く見られた。枝落とし作業は、狭いエリアで行うことが多く近接作業にならない、鋸の安全な使い方の指導がさらに望まれる。



### 4. 「間伐における安全管理」（岩田）

間伐作業には、地形、気象、樹種・形、伐倒方法などに関わらず、全てに共通する安全の基盤がある。それは、①トレーニングと経験、②健康と体調、③作業の危険性、④道具の安全性、⑤保護具、作業に適した服装、⑥他人との共同作業である。経験していないと危険の予測が難しい、指導を受けながら実習体験が必要、自・他を知り、反省と対策が必要であることが強調された。

間伐作業マニュアルにある安全管理の解説があり、中でも、選木時の重心の偏りや障害物への対応、滑車、スリング、ロープ、アンカー木にかかる力と必要強度の説明、ロープ掛けの位置（高さ）と木にかかる力の違い、掛かり木の角度により同じ力で引いても軸に加わる力が異なること、ツルの残し方（形状）についての詳細な説明をいただいた。



どの講演においても強調されたことは、「ボランティア活動では何よりも事故や怪我があってはならない。安全への配慮を最優先に活動に取り組む必要がある」とのことであった。

新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、密を避けるための人数制限と感染対策を実施した講習会となりましたが、多くの会員の参加をいただきありがとうございました。

## ナラ枯れ被害対策 交流研修会

主催： NPO 法人 こども自然公園どろんこクラブ  
神奈川県森林協会

日時： 2021年3月20日（土）13：00～16：00

場所： 横浜市旭区 こども自然公園 レストハウス、雑木林内

講師： 神奈川県森林協会 西口様  
神奈川県 横浜川崎地区農政事務所 倉野様

参加者： 県内の森林づくり活動グループから約25名

インストラクター参加者： 宮下⑩ 久保⑧ 松石⑬ 佐藤⑤ 松永⑪ 黒川⑭

(記 写真 黒川 敏史⑭)

### 1. 講義「ナラ枯れの原因と被害対策」

#### ○ナラ枯れの原因

直径1mm長さ5mm程度のカシノナガキクイムシ(以下カシナガ)が媒介するナラ菌が原因。カシナガは、菌の胞子を貯蔵する器官を持ち、ナラ菌、幼虫の餌となる酵母菌を木の中に持ち込む。ナラ菌が増殖すると木の中の水の導通を妨げ、木が枯れる。カシナガが穿孔するのは、ブナ属以外のブナ科の樹木で、ナラ属(コナラ、ミズナラ、クヌギなど)、シイ類(マテバシイ、スダジイなど)である。特に大径木が狙われやすく、細い若い木には少ない。また、穿孔されたミズナラで70%、コナラで30%の木が枯死する。

#### ○被害の状況

カシナガは、在来種で約60年前から被害が出ているが、1990年ごろから日本海側で被害が目立つようになってきた。カシナガが風に乗って飛ぶことから日本海側→西日本→東日本と被害が広がっている。全国的には、平成22年(2010年)にピークとなっている。

神奈川県では、2016年に初めてカシナガが捕獲され、2017年から箱根などで被害が発生している。2020年(昨年)急激に被害が増え、県内全域に広がった。

#### ○対策

カシナガは、6,7月にマスアタックして樹木に穿孔を開け、幼虫の状態越冬する。6月ごろに成虫となって、出てきて次の木に穿入する。したがって、対策は、①穿孔が空いた樹木からカシナガを出さない②健全な木に穿入させないという2つになる。それぞれ具体策は、下記の通り。

①枯木を伐採して焼却またはチップにする。

木から出てきたところを捕捉する(カシナガホイホイ等利用)

②健全な木の根から3m程度を少し厚手(0.1mm程度)のビニールシートで覆う

### 2. 実習「ナラ枯れ木の被害対策」

上記対策の実習がこども自然公園内の雑木林内で行われた。対策の相談は、森林協会、県にお問い合わせください。

①穿孔の有る木は、カシナガが出てきたところで捕捉するため粘着シートで木を覆う(枯れていない木も)

樹木一本に粘着シート5千円ぐらい必要

②健全な木をビニールシートで覆う

樹木一本千円程度

一般的な雑木林では被害木、または健全木の本数が多く、費用も掛かるので、対象を絞る必要がある。

穿孔された木の風下が次の年やられやすい。



①粘着シートで木を覆う



②ビニールシートで木を覆う

## 活動短信

今回の掲載はR3年3月9日-3月19日分です。  
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

5月(五月)(旧暦4月卯月)の

二十四節気と七十二候

**立夏** 5/5 頃

カエルが鳴き始め、ミミズが出る頃。筍も取れま  
す。夏のはじめですね

**小満** 5/21 頃

ベニバナが咲き、麦が  
実り、カイコが活発にクワ  
を食べる頃

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ  
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)  
写真もあれば添付ください。

### ◆ 活動団体・活動名 等

**日** 日付(できれば時間と天気も)

**場** 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

**参** 参加者 人数

**県** 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

**財(公財)** かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

**スタッフ** 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

**イ** インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、**本文を概ね400字前後を目安**として執筆ください  
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック  
をお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

### ◆ 相模原市立藤野南小学校・藤野北小学校 合同 間伐体験

**日** 令和3年3月9日(火)9:40~13:40

**場** 相模原市緑区澤井 大日野原林地

**参** 18名(教師等4名 5年生児童14名)

**財** 内田様

**スタッフ** やませみ 黒川様 福井様 森様

〃 看護師 長谷川様、堀田様

**イ** L佐藤武⑤ 小野⑦ 松石⑬

定刻 ふじの体験の森やませみでののはじめの会后  
2班編成にてヘルメットを装着して間伐現場へ。

現地林内で諸道具を配付後、改めて作業の危険  
性等を徹底して現場で作業開始。1班は桧、2班は  
杉で各々樹高18mを超す高木で、鋸を初めて使う生  
徒も有り、短時間でメンバー交代を繰返しながらの作  
業。

追い口を切り進む段階で生徒全員ロープを引く場  
所に移動。皆でセーノーと大きな掛け声でロープ引き  
1班は掛かり木となりロープを引く方向を変えて  
やっとなり倒れ。両班とも伐倒の瞬間は大きな地響き  
の中全員拍手で喜びを表した。



枝を払い、1.5mに玉切り後、桧材にて班別にコー  
スター作りと順調に進み、12時過ぎには下の広場にて  
楽しい弁当タイム。

帰着後の班別まとめの会では全員が感想、意見等  
を発表。林業作業の大変さと大きさが判った。最初  
は難しかったが段々慣れてきた。初めての貴重な体  
験となった。木が倒れた瞬間感動した。等々目を輝か  
せての発言があり活動終了。好天に恵まれ無事活動  
が終了した事に安堵した一日でした。

(記 小野幸広⑦)

森のめぐみの掲載は、  
今月号はありません。  
次掲載は6月号の  
予定です。

森のめぐみ シリーズ

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

かながわの水源地域の  
保全・再生をめざして

https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku

https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku

## ◆ 二宮町立一色小学校 「桜の植樹」

日 令和3年3月15日 13:00～14:15、晴れ

場 二宮町立一色小学校

学校周囲及び学校林(友情の山)

参 計 104名

大人 34名(教員4名 PTA20人 地域の方10人)

児童 70名(5年生35人 6年生35人)

財 内田様

イ L野牛⑧ 柏倉④ 徳岡⑩

松本⑩ 上宮田⑩

コロナ過で学校生活でも多くの制約がある中、子供たちに少しでも記憶に残る経験をさせてあげたいとの思いから、一色小学校のPTAが主導となり地域の皆さんの支援のもと6年生の卒業記念として、また今後の世話の継承を目的に5年生にも参加いただき、学校敷地内に(ソメイヨシノ 3本)6本、学校林内「友情の山」に(ヤマザクラ 80本)10本の植樹を行いました。

各班(11～12名 5・6年生混合)4班集体です。校内敷地内では1本のソメイヨシノを12名で植えます。密にならない様に、水汲み・堆肥運搬・堆肥と腐葉土混ぜ・穴掘り・植樹・水かけなどに作業を分担し



効率よく進めました。植樹後はそれぞれの班に分かれ桜の木・学校林・森林の働きなどへ話を展開させ子供たちとも触れ合いました。

本活動は会としても初めての試みで、リーダーには長期に渡って綿密な打ち合わせをいただき、副リーダー・PTA・地元の皆さんによる前日の穴掘り、埋め戻し作業、造園業のプロによる添え木の取り付け支援もいただき混乱もなく無事終了しました。

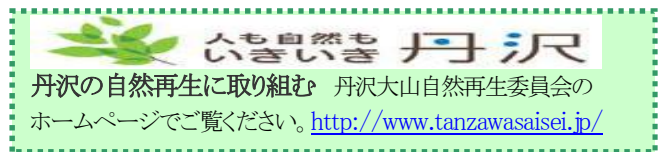
短時間に凝縮した活動であり、事前準備が整っており、児童の達成感においては疑問が残るとの振り返りの意見もあり、今後の「学校林支援の在り方」に

ついて多くの課題も見つかりました。これをきっかけに、学校林をより積極的に活用したプログラムの樹立、児童の総合学習の支援へとつながる事を期待したいとおもいます。



後日、地元で活躍するインストラクターからは植樹したソメイヨシノの花が一輪咲きつぼみも膨らんでいる、しっかり根付いたようだとの報告も頂きました。

(記 上宮田 幸恵⑩ 写真 野牛 雪子⑧)



## ◆ 茅ヶ崎市立赤羽根中学校 自然学習 森林講話

日 令和3年3月18日 11:00～12:00、晴れ

場 茅ヶ崎市赤羽根中学校体育館

参 中学2年生 生徒115名、教師7名

財 内田様

イ L松本⑩

緊急事態宣言が出て、当初予定の愛川ふれあいの村宿泊/長竹での間伐での活動ができず、学校も悩まれて学校で講話ができないか打診がありました。

久しぶりの大勢の生徒、初めての中学生対象の講話という事、コロナ禍で対人会話が少なくなり滑舌が悪くなっている、環境の事も話したいがデーターが古い。やめようか?そんな時思い出したのが長竹での間伐が始まった何年か前の茅ヶ崎の子供達。この時は未だ人の出入りが少ない山中にイノシシの骨があったのですがその骨をどうしても欲しいという生徒がいたので3重くらいの袋に入れてあげたのを思い出

し、茅ヶ崎の児童達、よし、講話をやりよう決め返答しました。

3/10の打合せ、下見(主にPC、プロジェクター等のインフラチェックとパワーポイントのVersionチェック)



ク)をし、環境データは古い2011頃までですが、また、環境の中で原子力発電所水素爆発の話も一部入りますが良いとの確認を頂きました。

#### 講話内容

1. 11:00 生徒からはじめの言葉  
11:05 から講話開始
2. 自己紹介 故郷の写真、川崎に出てきた頃の凄いい公害時期と現在のきれいな空の写真
3. 地球環境問題を簡単に⇒ 温暖化⇒ CO2 問題へ⇒ 森林について と話をつなぐ
4. CO2 問題⇒森林について
  - ①. 森林の役割を知ろう ②. 日本の森林
  - ③. 健全な森林をつくる仕事 ④. 森林の危機
  - ⑤. 森林を守る取組み ⑥. 水源の森林について

#### 5. 神奈川の森林と林業について (Forest & Forestry in KANAGAWA 2020 より抜粋)

12:00 終了 生徒から終わりの言葉をもらいました。

講話の冒頭で、心の片隅でも残しておいてね！と『木、森を使った格言』を伝えました。後日に生徒115名個々から感想／感謝文を頂きしっかりと覚えていてくれました。

『木を見て森を見ず』 英語でも慣用表現としてある。「can't see the wood for the trees」  
『森を見て木を見ず』 対義語 英語は無

講師の方が適度の緊張と頭の活性化になり、生徒から若さを蘇らせて頂いた日となりました。

滑舌は車の中で加山さん／ワイルドワンズの湘南茅ヶ崎サウンドを唄いながらいき、問題なく滑らかになりました。

(記 松本 保 ⑮)(写真:財団 内田様)

人々と森林をつなぐ、森林がもたらす豊かな暮らしを未来につないでいくために、緑の募金は、地域の人の身近な緑化活動や次世代が参加する森林体験活動などの支援に、大切に活用されています。



緑の募金

「緑の募金」にご協力をお願いします  
春の新緑シーズン(1～5月)と秋の紅葉シーズン(9～10月)を中心に  
家庭募金・街頭募金・職場募金・企業募金・学校募金などによって行われています。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。  
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当：井出恒夫)

「森の案内人」

3月から森の案内人を再開しています。

「やどりき水源林ニュース」



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news184.pdf>

4月号が発行されました。  
春到来です。

●問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: [cherril@gk9.so-net.ne.jp](mailto:cherril@gk9.so-net.ne.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: [hisa-ato2@22.netyou.jp](mailto:hisa-ato2@22.netyou.jp)

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★10年前大震災の後、平塚の海岸で海を見ていた。

今回も同じく海を見て…

地震もコロナも関係なく空は青く澄み渡り、波は静かに打ち寄せては返している。

地球から見たらこれらは表面でのちっぽけな現象なのだろうなあ。きれいな海と空と空気がある。(吉田)

★ 地元の緑地保全活動は30代~40代の新規会員があり、活気付いてきました。リモートワークに飽きて、野外活動をしたというのが入会動機です。コロナ感染を警戒して引き籠もっていた高齢の会員も、引きずられて久しぶりに活動再開。気候も良いので楽しい作業を楽しんでいます。(竹内)

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 加藤優美 阿藤寿孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫

武田昭典 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子

★高校野球もコロナのせいで見に行けず。かつて息子が所属していた高校の野球部も弱くなって、従弟の後輩の斎藤祐ちゃんもでてこず。

ベイスターズも大昔の大洋ホエールズのように弱く、ショーヘイ・オオタニ君だけが楽しみです。

でも日大豊山高校に野球と競泳の両方ともすごい子がいるみたいですよ。

昔は、野球のできる子は何でもクラスのスーパースターだったのですが。(松本)

★2021年の立春が例年より1日早かったからではないでしょうけど今年も季節代わりが早い。桜の開花、満開期日も気象庁記録最早だったそうです。

我家の横の竹林(よその土地!)の筍も例年ならGWの少し前くらいなのに今年も4月早々に掘りました!! (阿藤)

★また非常事態宣言が始まりましたね。

窮地に立つお店や人が多いと思いますが、救われる命もたくさんあると思います。インストラクターの活動も中止や制約がありますが、皆様と深緑の中で笑顔で会えるようゴールデンウィークを静かに過ごしたいと思います。(笠原)

★「森のなかま」は本号で、通巻300号を迎えました。2008年にNPO法人になってからは、155号です。

昨年のコロナによる休刊を除いて、毎月欠かさず発行できていることは、素晴らしいことだと思います。ひとえに会員皆様からの寄稿、活動短信のおかげです。ありがとうございます。今後ともよろしくお祈りします。(黒川)